

プレス資料  
2018年12月

# TOUR VIVA LEONARDO DA VINCI!

3大陸11か国を巡る  
ルネサンス500年祭プロモーションツアー

2018年9月～2019年1月



France.fr

# VIVA LEONARDO!

LE VISIONNAIRE

未来を見通した人、レオナルド

— VIVA —  
Leonardo  
Da Vinci!

— 2019 —

ルネサンス  
500年祭

サントル・ヴァル・ド・ロワール地方

# SUMMARY

## 目次

サントル・ヴァル・ド・ロワール、  
ルネサンスの精神が息づく地  
Page 5

1519-2019 : ルネサンスの500年  
Page 7

天分に恵まれた使者 レオナルド・ダ・ヴィンチ、  
先見の明に満ちた学者であり、  
芸術家、哲学者、人文主義の体現者  
Page 8

ルネサンスが花開いた舞台  
ロワール河流域  
Page 12

世界に知られる  
サントル・ヴァル・ド・ロワールの名所  
Page 14

サントル・ヴァル・ド・ロワール、革新的で魅力に溢れた地域、  
ライフスタイルのショーケース  
Page 22

500を超えるイベント満載の  
プログラム  
Page 26

いよいよ開幕！  
ふたつの展覧会をプレミアショーで  
Page 34

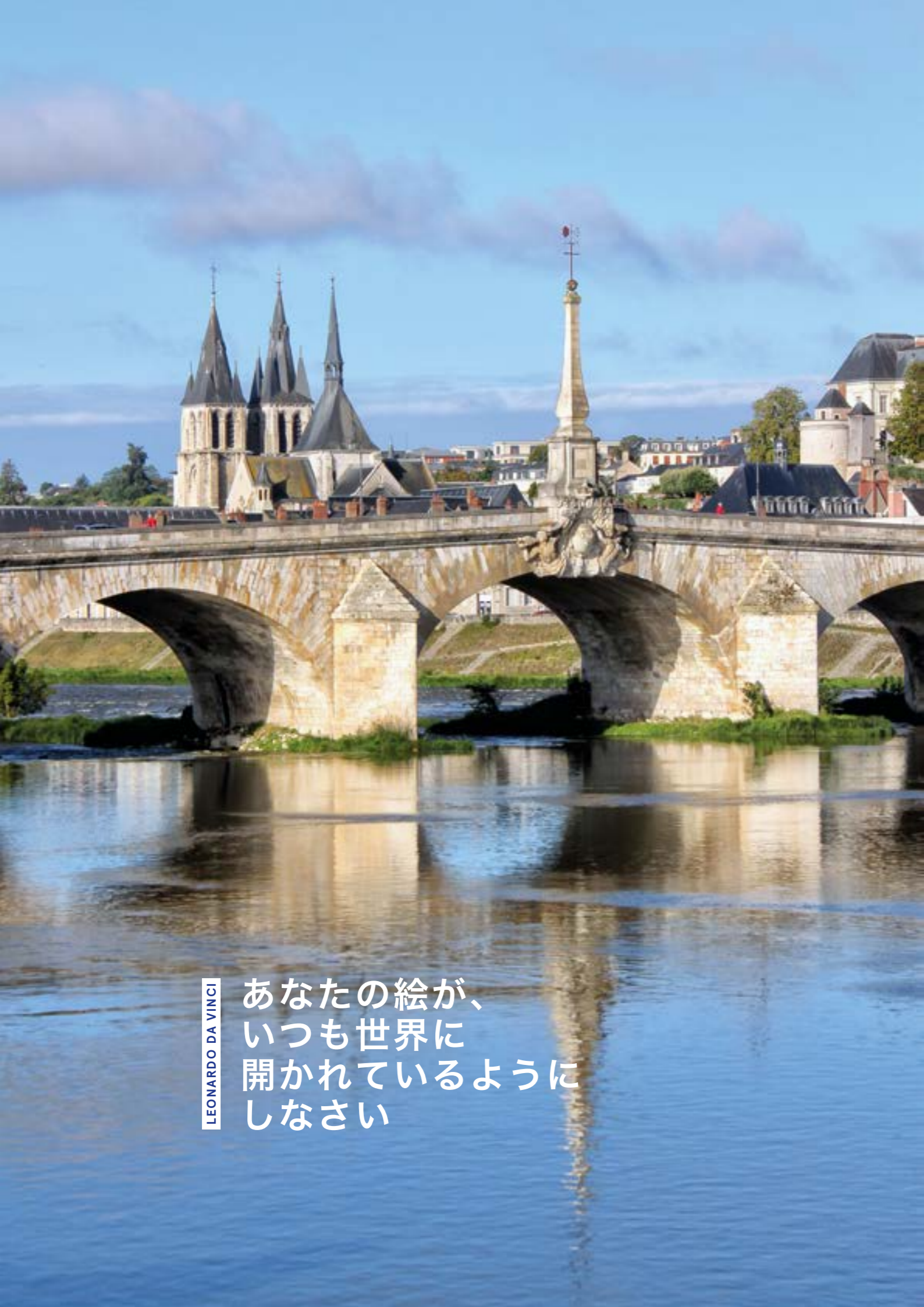
「VIVA LEONARDO DAVINCI !」ツアー  
Page 36

「VIVA LEONARDO DAVINCI !」プロジェクトパートナーの  
フランス観光開発機構  
Page 38

パートナーシップ  
Page 39

プログラムの参画メンバー  
Page 41

プレス貸出用画像  
Page 42



LEONARDO DA VINCI

あなたの絵が、  
いつも世界に  
開かれているように  
しなさい

# CENTRE-VAL DE LOIRE



## サントル・ヴァル・ド・ロワール、ルネサンスの精神が息づく地

ルネサンスの500年  
500 ans de Renaissance(s)

サントル・ヴァル・ド・ロワール地方は、この土地にある豊かな歴史遺産と文化を、地方のアイデンティティ形成の基礎に置こうと強く願っています。この土地にはルネサンス時代を中心に数世紀にわたり、才気煥発な知識人や人文主義者たちによって芸術、科学分野での創造性に満ちた精神が伝えられました。

2019年は、レオナルド・ダ・ヴィンチがアンボワーズ Amboise のクロ・リュセ城で死去してから500年目にあたります。またフィレンツェでカトリーヌ・ド・メディシスが生まれ、シャンボール城の建設が始まったのも同じ年です。

ユネスコ世界遺産に登録された風景に育まれたこのすばらしい歴史遺産は、前例のない発展を遂げ、シャンボール城、アゼ・ル・リドー城、ヴァランセ城、シュノンソー城、プロワ城のフランソワ1世翼棟、クロ・リュセ城などの建築がつつぎと生まれました。

サントル・ヴァル・ド・ロワール地方はフランスにおけるルネサンスの芸術と建築を育んだ土地であり、歴史と未来の対話を通じて、現代の世界に当時の熱気や生活を新しいかたちで伝えたいと考えています。

このたびの歴史的な祝祭イベントは現代の人々に向けられたものであり、歴史遺産、文芸、音楽、庭園、科学と技術革新、建築、手仕事、食、さらにはライフスタイルといったルネサンスに関する主要なテーマをめぐって、当地方のあらゆるエネルギーが動員されます。この地方の歴史においても特別な出来事となることでしょう。

芸術家、建築家、研究者、哲学者、デザイナー、人文主義者など様々な分野の人が集まり、サントル・ヴァル・ド・ロワールにおけるルネサンスについて考察し、私たちの文化の基礎とその精神性について問いかけます。

このすばらしい遺産を活用するだけでなく、それを維持することにも我々は責任を負っています。この地方が地元住民にとっても来訪者にとっても、創造、芸術の振興と教育の中心地であり、自然と文化を楽しむ魅力的な観光デスティネーションとなるよう努めなくてはなりません。

世界的に見ても前例のない「ルネサンス500年祭」というこのプロジェクトについて国境を越えたプロモーションに展開すべく、我がサントル・ヴァル・ド・ロワール地方はフランス観光開発機構と連携することにいたしました。

こうしてサントル・ヴァル・ド・ロワール地方は、2019年のフランス重要デスティネーションに選ばれたのです。

《レオナルド・ダ・ヴィンチ・ツアー》と題する世界周遊プロモーション事業は、2018年9月から2019年1月にかけて11カ国を巡回しながら、サントル・ヴァル・ド・ロワール地方におけるルネサンスの500年祭を世界に向かって発信していきます。

François Bonneau  
フランソワ・ボノー

サントル・ヴァル・ド・ロワール地方圏議会  
議長

Christian Mantei  
クリスチャン・マンテイ

フランス観光開発機構総裁

1519  
-  
2019

## 500 ANS DE RENAISSANCE(S)

### ルネサンスの500年

2019年は、シャンボール城の築城開始、そしてレオナルド・ダ・ヴィンチがアンボワーズのクロ・リュセ城で亡くなってから500年目にあたります。

中世末期から17世紀初頭に栄え「フランスの庭」と称されるロワール河流域（ヴァル・ド・ロワール）では、そこにある様々な街や城にフランスの王たちが暮らしました。

この豊かな政治、文化、遺産の歴史によって、このエリアはフランスにとってルネサンス発祥の地となっているのです。

14世紀イタリアで生まれたルネサンスは、シャルル8世とフランソワ1世によって、フランスのサントル・ヴァル・ド・ロワール地方に伝えられました。フランスの王たち、そしてイタリアからやって来た職人、庭師、建築家、芸術家たちは、城、教会、公共建築物、館、木骨軸組の住宅、邸宅などを建設することで、この地域の街や農村部を変貌させました。

こうして新しいライフスタイルと建築法をもたらしたルネサンスのおかげで、この地方は素晴らしい発展をとげ、今日でもフランスを代表する建築が多数残ります。シャンボール城

(1519)、アゼ・ル・リドー (1518)、ヴァランセ (1520)、シュノンソー (1514)、プロワ城のフランソワ1世翼棟 (1515) などがその例です。これには、レオナルド・ダ・ヴィンチやベンヴェヌート・チェッリーニといった人々が大きく貢献しています。

シャルル7世 (在位 1422-1461) からフランソワ1世の黄金時代をへてアンリ2世 (在位 1547-1559) の治世まで政治の中心地であったサントル・ヴァル・ド・ロワールは、人文主義や宗教改革が発展する知性の中心地でもありました。オルレアン大学には、ジャン・カルヴァン、エラスムス、ギヨーム・ピュテ (コレージュ・ド・フランスの創始者)、フランソワ・ラブレー、さらにテオドール・ド・ベーズが在籍しました。ブルジュ大学では、ミラノの法学者アルチャートが、法律の教育と実践に革新をもたらしました。

**この建築、文化、科学で時代の先端を行く精神は、その後何世紀にもわたって守られました。サントル・ヴァル・ド・ロワールでは、現在もこのルネサンス精神が活気ある創造の中に息づき、あらゆる分野で革新が続けられています。**



プロワ城 © Gillard et Vincent

# UN AMBAS- SADEUR GÉNIAL

天分に恵まれた使者



レオナルド・ダ・ヴィンチ、  
先見の明に満ちた学者であり、  
芸術家、哲学者、  
人文主義の体現者

印刷機の発明や新世界の発見は、思想を伝播し、人の移動をうながしました。それにより、古代のテキストをとらえ直す、いわゆる人文主義という新たな潮流を生む土壌が作られました。知的な関心事の中心に人間が据えられたのです。

人文主義はトゥーレーヌ地方出身のラブレーのような作家のたくさんの著作によって主張されていますが、誰よりもそれを体現しているのはレオナルド・ダ・ヴィンチです。建築家、画家、彫刻家、技師、数学者、解剖学者、地質学者、発明家として活躍した彼の才能はあらゆる分野に及び、ロワール流域にその痕跡が残ります。

## レオナルド・ダ・ヴィンチ サントル・ヴァル・ド・ロワールに おけるルネサンスの体現者

1516年、レオナルド・ダ・ヴィンチはヴァル・ド・ロワールのアンボワーズにやって来ました。64歳になっていた彼は、亡くなるまでの3年間をフランソワ1世の宮廷にほど近いクロ・リュセ城で生活します。

イタリアの芸術家たちがヴァル・ド・ロワールに来たことにより、建築、内装、外装、そしてライフスタイルに大変革の時代が始まりました。

こうしてさまざまな様式が混じり合い、16世紀初頭にフランス・ルネサンスが生まれたのです。

2019年、ダ・ヴィンチが暮らしたクロ・リュセ城、彼の墓があるアンボワーズ城を初めとし、サントル・ヴァル・ド・ロワール地方全域にて、この土地で生きた天才の功績が称えられます。



クロ・リュセ城、レオナルド・ダ・ヴィンチパーク © Leonard de Serres

1516-1519

# レオナルド・ダ・ヴィンチ アンボワーズへ

ダ・ヴィンチは弟子たちとともに、絵画、建築、哲学などさまざまな分野で活躍しましたが、アンボワーズでは舞台美術の才能も発揮しました。彼はクロ・リュセ城に著名人、王室関係者、大使、友人の芸術家を招きました。思想や流行に影響を与え、フランソワ1世ともしばしば会っていました。フランソワ1世はダ・ヴィンチに深い敬意を抱き、《わが父（モン・ペール）！》と呼ぶほど親しみを感じていました。

ルネサンスが開いたフランスの王宮で、ダ・ヴィンチは多くのイタリア人と再会しました。アンボワーズは、イタリアのライフスタイルの影響を受け、フランス・ルネサンス最初の中心地となり、芸術や政治の分野できわめて優れたイタリア人たちが集まりました。

アンボワーズでは、イタリア風の生活が行われていたのです！

クロ・リュセ城とアンボワーズ王城にて、ダ・ヴィンチは王の主催する大規模な宴会の演出、企画を担当しました。彼は複雑な舞台美術や豪華な大道具、活人画（役者や芸術家がポーズをとって絵画のような情景を作る）、自動機械、音と光の効果を用いました。

彼は数多くのスペクタクルを演出しましたが、中でも有名なのが1518年5月15日にフランスが勝利を取めたイタリアとの戦闘をアンボワーズのシャトリエ Châteliers 高原で再現したものです。

ルネサンス時代、商業と文化の発達により、都市部の人口が増加し、新しい都市計画が必要になりました。そして技師たちのあいだで、ひとつの夢が生まれました。城壁をなくして清潔な土地のある明るく広々とした理想の都市です。ダ・ヴィンチは、ルイーズ・ド・サヴォワ Louise de Savoie とフランソワ1世の注文に応じて、理想の都市を設計しました。この都市はロモランタン Romorantin (アンボワーズから70キロのところにある) に作られる予定でした。



レオナルド・ダ・ヴィンチの作とされる自画像 (1512-1515)。赤色顔料によるデッサン。トリノ王立図書館蔵。

## 1519年5月2日、 ダ・ヴィンチ、 クロ・リュセ城の居室で 亡くなる

ダ・ヴィンチは、本人の遺志に従ってアンボワーズ城のサン・フロランタン Saint Florentin 教会の回廊に埋葬されました。この教会は1808年に破壊され、数年後にダ・ヴィンチの墓はアンボワーズ城のサン・ユベール礼拝堂 chapelle Saint-Hubert に移されました。

サントル・ヴァル・ド・ロワール地域での滞在から500年後にあたる2019年、彼をテーマにしたたぐさんのイベントが開催されます。

## 王から招かれる！

ダ・ヴィンチをフランスに招いた若きフランソワ1世は、マリニャン Marignan の戦いに勝利して高い名声を得ていました。ふたりは法王との政教条約締結直後にポーニャで出会いました。ここからレオナルド・ダ・ヴィンチとフランス王たちとの関係が始まるのです。

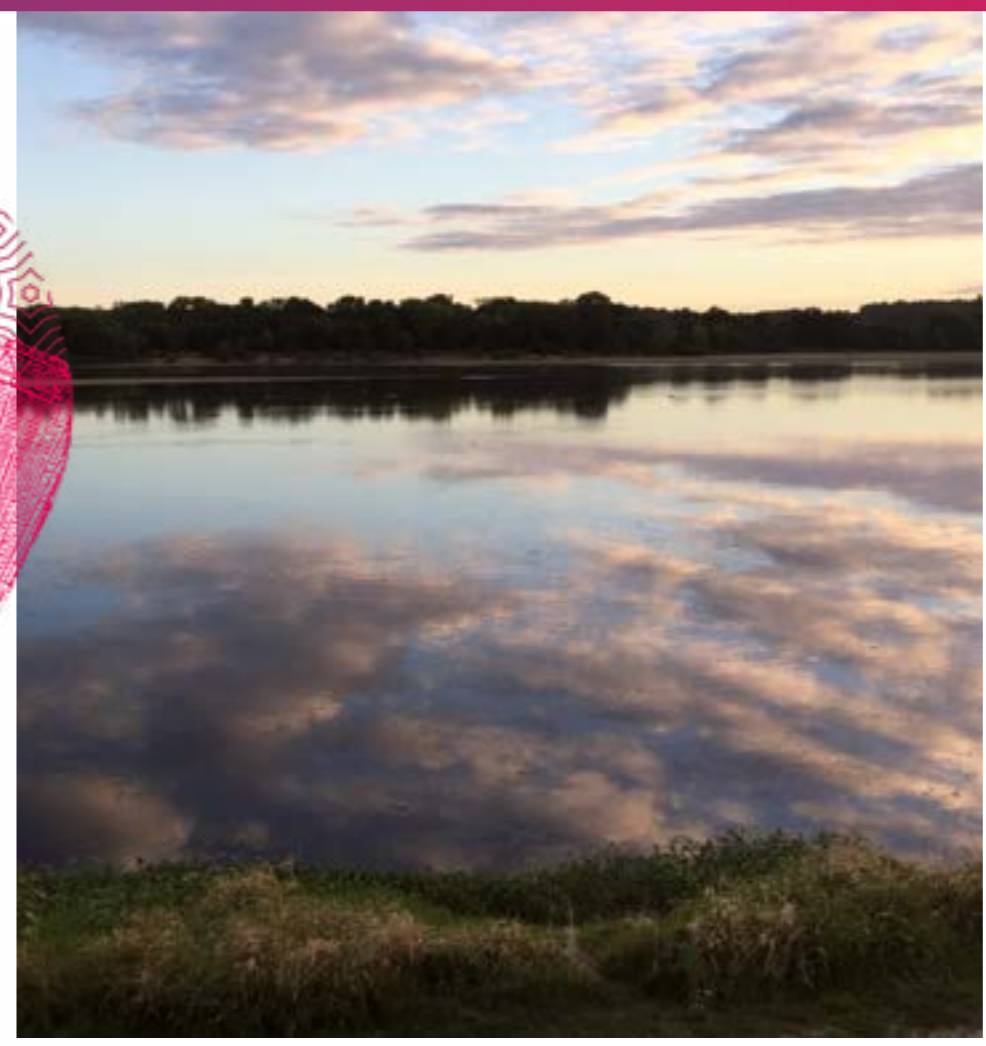
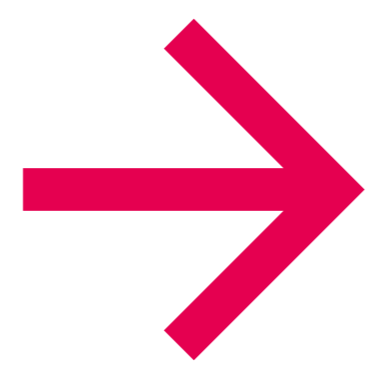
1505年から、ダ・ヴィンチはミラノのフランス総督であるシャルル・ダンボワーズ Charles d'Amboise に仕え、ヴェネツィアと戦う軍の技術者として1509年にルイ12世に同行しています。1515年、ダ・ヴィンチが設計したライオンの自動人形が、リヨン在住のフィレンツェ人商人と銀行家によって、フランソワ1世に紹介されました。ライオンはトスカーナのシンボルであり、これはフランスとトスカーナの同盟を祝うためのものでした。

1516年3月、法王の弟でダ・ヴィンチの庇護者でもあったジュリアーノ・デ・メディチ Julien de Médicis の死去をきっかけに、ダ・ヴィンチはフランス王からの招きを受け入れました。

すでに年老いていたダ・ヴィンチは、これが最後の旅だと考えていました。弟子のフランチェスコ・メルチとパティスタ・デ・ヴィラーニスにともなわれて、ダ・ヴィンチはアルプスを越えます。彼の荷物には、「モナリザ」「洗礼者ヨハネ」「聖母子と聖アンナ」の絵画と、生涯を通じて書きためられた手帳、手稿、メモが入っていました。フランソワ1世と母のルイーズ・ド・サヴォワはダ・ヴィンチを温かく迎えます。フランソワ1世は彼を《王の首席画家、首席技術者、首席建築家》と呼び、王宮からほど近いクルー城 Château du Cloux (現在のクロ・リュセ城) と潤沢な生活費を与え、自由に創作をさせました。

# LE VAL DE LOIRE ÉCRIN D'EXCEPTION POUR LA RENAISSANCE

ルネサンスが花開いた舞台  
ロワール河流域



ロワール河流域
地方自然公園の数 1
コミューンの数 157
県の数 4
人口 120万
面積 800 km <sup>2</sup>
流域の長さ 280 km

## ユネスコ世界遺産登録地 ロワール河流域

自然・文化遺産とは、人類の集団的記憶にとってかけがえのない共有財産のことです。国際社会は、1972年に世界遺産保護に関する条約を採択しました。1992年以来、人と自然環境の相互作用が自然景観の構成要素であると認められています。これにより、ロワール河流域は2000年11月30日に世界遺産に登録されたのです。

ロワレ Loiret 県のシュリー・シュル・ロワール Sully-sur-Loire からメヌ・エ・ロワール Maine et Loire 県のシャロンヌ・シュル・ロワール Chalonnes-sur-Loire へと続くロワール河流域は、その優れた文化的景観ゆえにユネスコ世界遺産に登録されました。

ロワール河流域は《河に沿ったすばらしい文化的景観で、2000年にわたって人と環境の相互作用によって作り上げられた。建築遺産、歴史的都市、世界的に有名な城など、きわめて高いクオリティーを持つ。この景観はまた、西ヨーロッパにおける思想や創造に影響を与

えた ルネサンスや光の世紀の理想も体現している》と評価されています。

この景観にはブドウ栽培、庭園文化、石の文化、河の文化という4つの側面があります。長く続けられてきた人々の活動は、この地域の基盤となるものです。これらが地域の発展と開発を方向付けてきたのです。

動脈ともいえるロワール河とその支流沿岸一帯とともに、2000年の歴史と活動から生まれたこの文化的景観は、自然と文化の記念碑と言えるでしょう。



ブロワ城 © D. Lepissier

## 世界に知られる 数々の名所

### → CHÂTEAU ROYAL DE BLOIS

#### ブロワ城

ブロワ城はフランスの7人の王と10人の王妃に愛され、何世紀ものあいだ劇的事件、策謀、権力の駆け引きがくり広げられました。このように歴史の劇場である一方、たくさん子どもたちや将来の王が遊び、成長した家族生活の場でもありました。

2019年には、ちょうど500年前に生まれ1589年にこの城で亡くなったカトリーヌ・ド・メディシスのお祝いがブロワ城で行われます。ルネサンスを代表する人物である彼女の母親としての一面が展覧会《ルネサンスの子どもたち Enfants de la Renaissance》のテーマです。この展覧会では、16世紀の子どもをめぐる慣習についての展示がはじめて行われます。2019年には、新しい庭園も複数完成します。優雅なもの、洗練されたもの、現代的な構成のものなど、失われてしまった王宮の庭を思い起こさせることでしょう。

ブロワ城は何世紀にもわたって、つねに生まれ変わり続け、変わらぬ《ルネサンス（復興）》を遂げてきたのです！

## DOMAINE NATIONAL DE CHAMBORD

### シャンボール城

シャンボール城は、他に例を見ない芸術作品です。1840年にできた最初の史跡のリストに登録され、1981年にはユネスコの世界遺産にも認定されました。

シャンボール城は、フランソワ1世とレオナルド・ダ・ヴィンチが思い描いた、美と知性あふれる建造物です。シャンボール城の建築における地位は、絵画における「モナリザ」のそれに等しいと言えるかもしれません。

シャンボール城は、ルネサンスの表現そのものであり、ルネサンスの象徴として世界に知られているのです。これは、シャンボール城が当時の非宗教建築として最も重要だからだけではなく、その設計が永遠の再生、生命の循環、宇宙における人間の位置、永遠の姿を表現しているからでもあるのです。

シャンボール城では、ダ・ヴィンチの秘密へと通じる扉を開く謎に満ちた特別な世界へいざなわれます

1519年に、フランソワ1世の後押しによってシャンボール城の建築が始まります。この城はのちに、フランス・ルネサンスでもっとも驚愕すべき建築物となります。たとえば500年に渡って愛されるこの城にびつたり、永遠の再生を意味する二重らせん階段は、多くの人々に目の眩むような美しさと、周囲の風景と見事に調和したこの城のユニークな特性を感じさせてくれます。



ショモン・シュル・ロワール © Alex MacLeann pour le Domaine de Chaumont-sur-Loire

## DOMAINE RÉGIONAL DE CHAUMONT- SUR-LOIRE

### ショモン・シュル・ロワール

コンテンポラリー・アートに惹かれる、好奇心旺盛である、庭園を空想するのが好き、ガーデニングのアイデアが欲しい、歴史遺産に興味あり、歴史マニア…。こんな方はぜひショモン・シュル・ロワールへ。きっと満足していただけることでしょう。

ショモン・シュル・ロワールは、広さ32ヘクタールの敷地が3つのエリアで構成されています。

・芸術自然センターCentre d'Arts et de Nature。毎年約15人の著名アーティスト、造形芸術家、写真家を迎えています。

・国際庭園フェスティバルFestival International des Jardins。1992年から行われており、庭園のプロ、愛好家たちから高く評価されています。毎年世界中から緑地景観デザイナー、造園家が招かれます。

・ロワール河流域でもひととき美しい城館。周囲には広大な英国式庭園が広がっています。

[www.domaine-chaumont.fr](http://www.domaine-chaumont.fr)

さまざまな格付や承認を得た観光地

- ・ミシュラン・グリーンガイド『ロワールの城』で3つ星を獲得
- ・トリップアドバイザーTripAdvisorで「エクセレンス」レベルを獲得
- ・「傑出した庭園」
- ・「見事な木々」
- ・「ツーリズム・クオリティー」

### ロワール河流域のロマンティックなルネサンスの傑作

150年前から、歴史書や旅行書はアゼ・ル・リドー城をル・ヴァル・ド・ロワールで最も美しいルネサンス建築のひとつとして紹介しています。この城は16世紀建築の傑作で、アンドル川の中州にそびえ、19世紀ロマン派の公演に囲まれています。500年の歴史を誇る貴重な装飾と、豪華な美術品、タピスリー、家具などのコレクションが見どころです。

建物は調和がとれていて洗練され、フランス随一のルネサンスの城と言えます。16世紀、アゼ・ル・リドー城はフランソワ1世の手紙の中で、すでに「娯楽用の城」と称されていました。城の建設は、1518年に王が資金を提供して始められました。シャンボール城の建設が始まる1年前のことです。建物の装飾のあちこちにサラマンダーとイタチが見られますが、これはフランソワ1世のエンブレムであり、城の建設に王が貢献したことを表しています。広いバルコニー通じる階段はイタリアの階段から着想を得て、ロワール流域のルネサンス建築物の中でも最もすばらしいものの一つです。

## CHÂTEAU D'AZAY LE RIDEAU

### アゼ・ル・リドー城





# EXCEPTIONNELS

## SITES

数々の名所

### CHÂTEAU DU CLOS LUCÉ

クロ・リュセ城



クロ・リュセ城 © Leonard de Serres



レオナルド・ダ・ヴィンチのフランスにおける物語、そして「モナリザ」など彼の傑作にまつわる物語も、ここ、クロ・リュセ城で始まります。

フランソワ1世の招きにより、ダ・ヴィンチはイタリアを去り、1516年秋にクロ・リュセ城にやって来ました。《王の首席画家、首席技術者、首席建築家》の肩書を得た彼は、その才能を王のためにささげ、数々の計画のために休むことなく働き続け、理想の城の構想を練りました。1519年4月23日、ダ・ヴィンチはアンボワーズの公証人ギヨーム・ブローGuillaume Boureauに遺言を遺します、そして1519年5月2日に、神の加護を求め、埋葬の手配をすませたあと、クロ・リュセ城で世を去りました。この時からひとつの神話が始まり、絶えることなく世界に広がっているのです。

#### クロ・リュセ城

アンボワーズのクロ・リュセ城には、ここに滞在し豊かな時間を過ごした滞在者たちの思い出とともに、ダ・ヴィンチの精神が息づいています。

おすすめスポット：再現されたレオナルド・ダ・ヴィンチのアトリエ

#### レオナルド・ダ・ヴィンチ・パーク

レオナルド・ダ・ヴィンチの発明が展示されているユニークな野外博物館。最初に作られた文化公園であり、アンボワーズのクロ・リュセ城の景色を眺めながらの散歩は、先見の明に満ちたレオナルド・ダ・ヴィンチの足跡をたどる恰好のコースとなります。

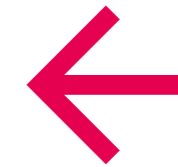
#### レオナルドの庭園

広さ1ヘクタールのこの庭園は、レオナルド・ダ・ヴィンチの絵画やデッサンの世界を風景や植物で表現した野外博物館です。

ここにすれば、五感が刺激され、《すべては自然の中にある》と語ったダ・ヴィンチと自然とのつながりを知ることができます。



アンボワーズ城 © Leonard de Serres



### CHÂTEAU ROYAL D'AMBOISE

アンボワーズ城

王の気分になってみる…

ロワール川の上に突き出した岬に美しくそび

える宮殿を想像してみてください。天と地のあいだに浮かんだような庭園を思い浮かべることが出来ますか？フランスの王たちが国をルネサンス風にすっかり変えてしまった時、ここが彼らに最も愛された場所のひとつになったのもうなずけます。シャルル8世、フランソワ1世、レオナルド・ダ・ヴィンチ（彼はこの城のチャペルに葬られています）、アンヌ・ド・ブルターニュ王妃、そして最後のフランス国王ルイ・フィリップ。彼らはいずれもこの土地ゆかりの人物です。こんにちでは、息をのむような眺めを楽しめます！城壁からユネスコの世界遺産に登録された風景を180度眺めることができるのです。城には今も多くの人々が訪れ、周囲には広大な自然が広がり、80種以上の鳥たちの憩いの場となっています。アンボワーズは2019年のヒストパッド HistoPad をはじめとするイノベーションと新技術を誇り、つねに新しい発見のある地なのです。



世界にも例を見ないシュノンソー城の建築は、カトリーヌ・ド・メディシスのアイデアによるものです。彼女は川の上にかかる2つの回廊を作らせたのです。これはこの城の美しいシンボルであり、ヴァル・ド・ロワールのヴェッキオ橋とも言えるでしょう…



シュノンソー城 © ADT Touraine Loic Lagarde

### CHÂTEAU DE CHENONCEAU

シュノンソー城

2018年のクリスマスにこの王妃をしのび、それぞれの部屋、客間、厨房などに、城のアトリエ・フローラルとフランス国家最優秀職人である舞台美術家が作品を展示します。有名なグランド・ギャラリー（大回廊）では、セーブル・クリスタルの貴重なコレクションが豪華な花束とともに展示され、フランスの優れた2つの《メゾン》の共演が実現します。

2019年：シュノンソー城は、1519年フィレンツェで生まれたカトリーヌ・ド・メディシスの生誕500年を祝います。シュノンソーの洗練された姿は、彼女のアイデアによるものだったのです。

春：完全に消滅していたカトリーヌ・ド・メディシスの薬剤室がオープンします。

また、庭園にも新たな色彩が加わります。モニュメントからレストランまで、シュノンソー城は《フランスで最も偉大な王》として知られるカトリーヌ・ド・メディシスをとおして歴史の一端をみなさまにお届けします。

# DEUX CATHÉDRALES FLAMBOYANTES INSCRITES AU PATRIMOINE MONDIAL DE L'UNESCO

ユネスコ世界遺産に登録された  
2つのフランボワイヤン様式大聖堂



## CATHÉDRALE DE CHARTRES シャルトル大聖堂

サントル・ヴァル・ド・ロワールのシャルトル・ノートル・ダム大聖堂は、13世紀初頭の宗教建築物としては最も本来の姿を残した完成度の高いもののひとつです。

その一部は1145年から建築が始まり、1194年の火災の26年後に立て直されました。フランスのゴシック芸術のなかでもとりわけ優れた建築物です。

純粋なゴシック様式の巨大な外陣、12世紀中期のすばらしい彫刻がほどこされたポーチ、12 - 13世紀のステンドグラスのきらびやかな装飾。これらが、よく保存されたこの聖堂を類いのない傑作にしているのです。この大聖堂は、中世のヨーロッパで人気の高かった聖母マリア巡礼の拠点でした。ゴ



シック初期の洗練から生まれた統一感のある建築と装飾、中世キリスト教芸術に与えた大きな影響により、シャルトル大聖堂は中世建築のシンボルのひとつと見なされます。みごとなステンドグラス、12 - 13世紀の巨大な彫刻、老朽化や人的破壊から奇跡的に守られた絵画装飾により、シャルトルの地はゴシック芸術が最もよく保存されたひとつのお手本となっています。

シャルトルでは、ルネサンス時代の壮麗なステンドグラス技術が、現代のアーティストのあいだで受け継がれています。

●ユネスコのHPより

# SITES EXCEPTIONNELS

数々の名所



## CATHÉDRALE DE BOURGES

ブルージュ大聖堂

12世紀末から13世紀の初めに建てられ、均整のとれた統一感で知られるブルージュの聖エチエンヌ大聖堂は、ゴシック芸術の大傑作のひとつです。その美しい建築のみならず、この大聖堂は中世フランスにおけるキリスト教の隆盛をものがたる存在としても価値があります。ブルージュはかつてローマ帝国のアウァリクム Avaricum の都市であり、ガリアのキリスト教コミュニティのなかでも最古のものに数えられます。

ブルージュ大聖堂はキリスト教最初の殉教者である聖ステファノをまつており、3世紀から信仰の地として知られていました。もっとも特徴的なのは、側壁と統一感ある内部です。北側と南側の出入り口の彫刻や正面玄関のタンパンにほどこされた最後の審判の彫刻、内陣しきりの彫刻などは、きわめて優れたゴシック芸術の一例です。大聖堂にはその後の時代の影響が見られます。たとえばステンドグラスには、14、15、16世紀それぞれの技術を見ることができるのです。

ブルージュは、ベリーBerryという歴史上のフランスの地方にある都市で、ルネサンス時代には知識人らが数多く集まりました。ヨーロッパ有数の大学都市であり、この地で生活した著名人ゆかりの建築物や芸術作品が残っています。

●ユネスコのHPより

# ARTS CULTURE

4/世界に知られる数々の名所

## UNE OFFRE CULTURELLE ET ARTISTIQUE EXIGEANTE POUR TOUS

### あらゆるジャンルをカバーする文化・芸術施設

サントル・ヴァル・ド・ロワール地方では、地元の人も観光客も、誰もが楽しめる文化的な機会を豊富に提供できるよう努めており、芸術・文化と触れあえるイベントや施設が数多くあります。

壮麗な城、教会、美しい庭園、産業の伝統… サントル・ヴァル・ド・ロワールには、芸術と文化の歴史が受け継がれています。有形無形の遺産によって支えられる変化の中で、私たちは現代の芸術活動を全面的に支援しています。

この革新的な政策により、サントル・ヴァル・ド・ロワールには、大規模な文化施設がいくつも作られました。それぞれに役割、専門、歴史があり、お互いを補い合いながら文化事業や活力ある観光事業（地元レベルから地方、国、国際レベルまで）に貢献しています。コンテンポラリー・アート施設のネットワークはヨーロッパ唯一で、その実践性、実用性が特徴です。

アミイAmillyのレ・タヌリー芸術センターCentre d'art des Tanneries、ブルージュのアートセンター「トランスパレット Transpalette」、トゥールのオリヴィエ・ドゥブレ現代創作センター(CCCOD)、建築家ジャコブ+マクファーレン Jacob et MacFarlane によるオルレアンのレ・チュルビュランス・地方現代アートセンター(FRAC)、ショモン・シュル・ロワールの自然と芸術創作の関わりをテーマにした最初のアートセンターなど、コンテンポラリーな創作に関する多様な施設ばかりです。

### コンテンポラリー・アート関連の主な施設

- ・ ショモン・シュル・ロワール芸術・自然センター。国際庭園フェスティバルが開催される。
- ・ レ・チュルビュランス・サントル・ヴァル・ド・ロワール地方現代アートセンター。オルレアン建築ビエンナーレ。
- ・ サシェSachéのアトリエ・カルテール
- ・ トゥールのグーアン邸
- ・ トゥールのオリヴィエ・ドゥブレ現代創作センター
- ・ ブルージュのアントル・ポAntre-peaux とアートセンター「トランスパレット」
- ・ プロワのフォンダシオン・デュ・ドゥート
- ・ ノワルラックNoirlac 修道院の文化センター
- ・ レムレLémeréのリヴォー城
- ・ ユイスマ Huismes のメゾン・マックス・エルンスト
- ・ アミイのレ・タヌリー芸術センター
- ・ ロワレ Loiret のストリートアート・ラベル・ヴァレット・フェスティバル
- ・ Château- Renault シャトー・ルノーのシクリック・アニメーション・フェスティバル



建築家ジャコブ+マクファーレンによるレ・チュルビュランス・サントル・ヴァル・ド・ロワール地方現代アートセンター。© Nic Borel



リート・バレエLied Ballet。トマルブラン Thomas Lebrunカンパニー © Frederic Iovino



シャトードー(給水塔)Chatodo © Francois Christophe

## POLITIQUE CULTURELLE

### 文化面での政策

多くの方にお楽しみいただける、バラエティ豊かな文化イベントを開催しています。

地域で行われる演劇・コンサート、映画、オーディオビジュアル、造形芸術などのイベントやフェスティバルを支援しています。

- ・ ル・ブランタン・ド・ブルージュ Le Printemps de Bourges
- ・ トゥールのフェスティバル・テール・デュ・ソン Le Festival Terres du Son
- ・ メレ修道院フェスティバル Le Festival de la Grange de Meslay
- ・ トゥールのオータムコンサート Les Concerts d'Automne
- ・ トゥール・オペラ座とサントル・ヴァル・ド・ロワール交響楽団 L'Opéra de Tours et l'orchestre symphonique Centre-Val de Loire
- ・ オルレアンファブリック・オペラ La Fabrique Opéra
- ・ 本の森 La Forêt des Livres
- ・ 移動映画館車シネモビル Les Cinémobiles
- ・ プロワのランデヴー・ドゥ・リストワール Les Rendez-Vous de l'Histoire
- ・ リストマニア Lisztomania

# UN TERRITOIRE ATTRACTIF ET INNOVANT

革新的で魅力に満ちた地域

## 革新的で、競争力が高く、信頼できる 経済分野

250万人の人口を擁するこの地域では、各専門分野の技術が高い評価を受け、地域経済を潤しています。

- ・化粧品用香料の生産がフランス第1位。世界的に知られるコスメティック・バレーCosmetic Valleyの存在による。
- ・サイクルツーリズムでフランス第1位。
- ・薬品の生産がフランス第2位。
- ・ゴム製品の生産がフランス第2位。
- ・大規模耕作の生産がフランス第2位。
- ・エネルギー生産がフランス第2位。
- ・航空産業の下請けがフランス第2位。
- ・フランス産業の下請けがフランス第3位。

## 自然と文化のすばらしい共存

この地域の歴史文化遺産は、それに劣らぬ価値を持つ自然に囲まれています。この環境は、ルネサンス期の偉大な天才たちにイマジネーションを与え、現在も創造、研究、革新の中核です。人と自然の関わりは16世紀の芸術と科学をはぐくみ、現在行われている環境への配慮ともつながっています。

サントル・ヴァル・ド・ロワールはその活動すべてに環境への配慮をとり入れ、計画の作成にもこのテーマを反映させて行きたいと考えています。そして各プロジェクトの主催者にも環境への配慮を促しています。プロジェクトやイベントそのものにおいても、自然、文化・経済関係者、住民、アーティストなどのつながりが見られ、これは地域を特徴づけるアイデンティティーともなっています。ショモン・シュル・ロワール Chaumont-sur-Loire、芸術自然センターCentre d'Art et Nature、3つの自然公園、数多く残るみごとな森、造園技術(この技術により、ヴァル・ド・ロワールは《フランスの庭園》と呼ばれています)などがその例となっています。

サントル・ヴァル・ド・ロワールは、フランスの地方圏としては7番目の広さを誇り(39,151km<sup>2</sup>)、さまざまな分野のスペシャリストが活躍しています。

## LA RÉGION CENTRE-VAL DE LOIRE DISPOSE PAR AILLEURS D'ATOUTS MAJEURS サントル・ヴァル・ド・ロワール の主要産業施設

- ・4つの産業クラスター：コスメティック・バレー、エラストポール Elastopôle、S2E2(電力科学とシステム)、DREAM(持続可能な水資源)。
- ・地域の主要な産業分野(伝統産業、製菓業、サービス業、農産物加工業、農業など)のネットワークを円滑にする9つのクラスター。
- ・トゥールのマム Mame とオルレアンのラボ Lab'Oの2つのインキュベーター。



## LE NUMÉRIQUE AU SERVICE DU PATRIMOINE 歴史遺産にデジタル技術を

わがサントル・ヴァル・ド・ロワール地方では、歴史遺産や観光分野に活用されるデジタル技術の開発が進んでいます。これは専門技術を持つスタートアップ企業のネットワークと、未来型のデジタル機器開発に協力する主要な史跡や施設との連携により行われています。

3年前から、ARD 歴史遺産インテリジェンス(I-Pat)プログラムが、革新的研究をダイナミックに幅広く展開しています。決められたテーマ(城、ワインとガストロノミー、都市部の公園と庭園など)から、サントル・ヴァル・ド・ロワールの研究・教育組織が協力し、それぞれの特性と科学的アプローチをひとつの目標に集約させるのです。その目標とは、科学的な知識をサイエンス・メディアーションによって、地域の観光に携わる社会・経済的な当事者と結び付けながら、新しい観光商品やサービスのあり方を明確にすることです。最初の試みは、《ルネサンス・トランスメディア・ラボ Renaissance transmédia Lab》で、レオナルド・ダ・ヴィンチに焦点を当ててルネサンスの歴史遺産の研究を行うものです。インタラクティブなウェブ・ドキュメンタリーとヴァーチャル・リアリティを用いたシリアス・ゲーム Serious Gameを通じて高レベルの科学知識を活用し、ダ・ヴィンチの業績をあらためて理解してもらうのに役立ちます。

アンテリジャンス・デ・パトリモワヌは、サントル・ヴァル・ド・ロワール地方圏とトゥール・ルネサンス高等研究センターの支援を受けるイノベーション、教育、企業

のための学際的研究プログラムで、新しい形の研究と文化・自然遺産の活用を提案しています。

科学・文化メディアーションの新しいデジタル製品を開発し、2019年の文化シーズンには、ふたつの大きなパートナーと協力します。

・シャンボール城：展覧会《シャンボール 1519 - 2019 Chambord 1519-2019》への協力

・CESR：ネット上でアクセスできる(renaissance-transmedia-lab.fr)インタラクティブな体験を通じてルネサンスの歴史遺産を(再)発見するルネサンス・トランスメディア・ラボ Renaissance Transmédia Labの開設。

予定されている企画：レオナルド・ダ・ヴィンチの考案した機械のヴァーチャル・リアリティによる再現、トゥールのサン・マルタン参事会教会 collégiale Saint-Martinの3Dによる再現、インタラクティブなウェブ・ドキュメンタリー、ミュージック・アプリなど。

# GASTRONOMIE

食文化

## VITRINE DE L'ART DE VIVRE

### ライフスタイルのショーケース

2003年10月17日のユネスコの無形文化遺産保護に関する協定が、2006年にフランスで批准されました。それ以来、歴史文化遺産の概念がライフスタイル、口承伝統、舞台芸術、儀式、知識と技術まで広がりました。

このように文化活動、お祭り、技術だけでなく、食文化やワイン醸造も歴史文化遺産と見なされるようになったのです。

《フランスの庭園》、そしてフランソワ・ラブレーゆかりの地として名高いサントル・ヴァル・ド・ロワール地方は、高品質の食品、豊かな歴史、肥沃な農産地、暮らしやすさでも知られています。

料理の伝統と《フランス風》のライフスタイルを誇る当地方には、観光客を受け入れる222のワイナリーがあります。また「欧州食文化・歴史研究所 (IEHCA)」発行のリストには、この地域の伝統と食の特性を持つ110の製品(オルレアン製のピネガーとマスタード、ペリーの緑レンズ豆、マラ・デ・ボワ(イチゴの品種)、モナン Monin 社のシロップ)が掲載されました。

これらはいずれも他に類を見ない食の遺産です。

#### 食卓に本質と驚きを

ルネサンス時代には、人や物の交流、旅、さまざまな発見がテーブルアートや食文化を根本的に変えました。フランス風の食事、名高いフランスの食卓、ご馳走をたべる喜び、質と洗練の探究は、遠い土地からもたらされた食べ物や習慣によってこの時代に生まれ、現在もフランスの名声を高めています。ルネサンスはまた、新しいスタイルの生産と消費が生まれた時代でもありました。この変化は、新しい食のスタイルや質、味が探究され、製品が本物であることを証明し、トレイサビリティを保証する現在の食の変化と通じるものがあります。

ルネサンス 500 年祭《Viva Leonardo da Vinci!》では、この伝統をふまえ、ガストロノミー、生産・消費スタイルにおける21世紀のさまざまな変化を考えます。このプログラムでは、まず食の経験を通して生産から食卓までの旅をしていただくことを提案します。イベント内でのレストラン、宴会では、近郊で生産された質の高い食材が使用されます。



# UNE PROGRAMMATION QUI CÉLÈBRE LES THÈMES ET FIGURES DE LA RENAISSANCE

## ルネサンスをめぐるテーマと人物を知るプログラム

ルネサンスの熱気は、今日の私たちのさまざまな挑戦に通じています。このルネサンスの精神は、サントル・ヴァル・ド・ロワール地方の豊かさだけでなく、将来私たちがぶつかる問題を知ることにも役立つに違いありません。

ルネサンスの貴重な有形無形の遺産と当時の著名な人物らがアニバーサリーイヤーの大きなテーマとなります。:

歴史と遺産

科学と技術

芸術と文化

ライフスタイル

予定されている催し：展覧会、新しい見どころのオープン、科学に関する国際シンポジウム、歴史遺産の見学、出版とオーディオヴィジュアルメディア、芸術作品の創作と発信、メディアエーション活動、ワークショップ、技術・科学による演出、デジタル関連...

## 地元を挙げて取り組む特別なプログラム

ユニークで多種多様、それでいて統一感のあるプログラムを実現する—そのために、サントル・ヴァル・ド・ロワール地方は「ルネサンス500年祭」の名の下に、地元住民と地域経済を連携させながら、野心に満ち、集合的で参加型のエネルギーを作り出す行動を集約すべきと考えました。

有名な観光スポットで行われるイベントのほかにも、2018年2月に発表したプロジェクト募集に応じて、文化、歴史遺産、観光、科学、経済、環境などの団体から500以上の案件が提案されました。

地域が一丸となってこれまでにないほどの高揚感に包まれていること表れとなる2019年のプログラムは、さまざまな時代とルネサンスの

主要テーマを結び付けます。テーマは、歴史遺産、科学と技術、芸術と文化とライフスタイルの3つに大きく分けられます。

この市民の手になる持続可能なプログラムは、歴史と科学をテーマにしたさまざまなイベント(伝統的なものから庶民的なものまで)を連携させ、ルネサンス時代の熱気、レオナルド・ダ・ヴィンチの天賦の才、そしてきわめて現代的な思想(人文主義、普遍性、1516年にトマス・ムーアが考えたユートピア)と現代の変化からアイデアを得たものです。

すべてのイベントは、芸術、文化、科学、ライフスタイルに興味を寄せる一般の人々から専門家まで、どなたにもお楽しみいただける内容です。

# RÉGION CENTRE-VAL DE LOIRE

サントル・ヴァル・ド・ロワール地方

VIVA  
Leonardo  
Da Vinci!  
2019  
ルネサンス  
500年祭

サントル・ヴァル・ド・ロワール地方



# + DE 500 ÉVÉNEMENTS POUR UNE PROGRAMMATION EXCEPTIONNELLE !

500を超えるイベント満載 とっておきのプログラム！

展覧会、スペクタクル、科学をテーマにした国際シンポジウム、歴史遺産の見学、作品の創作、メデイエーション・ツールとワークショップ、デジタル関連など、さまざまな時代、世界、思想、芸術形式を結びつけた、見逃せないイベントが地域全体で行われます。

## 展覧会

2019年5月2日-8月31日

📍 アンボワーズ城

1519年、レオナルド・ダ・ヴィンチの死：神話の構築 1519, LA MORT DE LÉONARD DE VINCI : LA CONSTRUCTION D'UN MYTHE

レオナルド・ダ・ヴィンチの滞在500年を記念して、アンボワーズ城はレオナルド・ダ・ヴィンチの死をめぐる展覧会を開催します。2019年5月2日からは、フランソワ＝ギヨーム・メナジヨ François-Guillaume Ménageot による絵画《レオナルド・ダ・ヴィンチの死 La mort de Léonard de Vinci》(1781)が展示されます。協力：フランス国立図書館、フオンダシオン・サン＝ルイ Fondation Saint-Louis

## シンポジウム

2019年6月

📍 トゥール - アンボワーズ - シャンボール

レオナルド・ダ・ヴィンチ 創作と革新 LÉONARD DE VINCI, CRÉATION ET INNOVATIONS  
ルネサンス高等研究センターによる第62回国際シンポジウム

トゥールで開催されるこのシンポジウムの2019年のテーマはレオナルド・ダ・ヴィンチ。世界的に名高い専門家たちを招き、発明と革新という切り口でダ・ヴィンチ作品のさまざまな側面にせまります。機械、薬学、建築、バイオメティクスなど、話題は広範囲にわたります。シンポジウムの一部

は、アンボワーズのクロ・リュセ城、シャンボール城など、ダ・ヴィンチゆかりの地で行われます。

## 国際展覧会



2019年6月6日-9月2日

📍 クロ・リュセ城 - アンボワーズ  
レオナルド・ダ・ヴィンチ・パーク

フランソワ1世のために絹と銀糸で製作されたダ・ヴィンチの傑作「最後の晩餐」のタピスリー LA TAPISSERIE DE LA CÈNE DE LÉONARD DE VINCI, UN CHEF D'OEUVRE EN SOIE ET ARGENT POUR FRANÇOIS I<sup>er</sup>

1519年5月2日にクロ・リュセ城でダ・ヴィンチが亡くなってから500年を記念して、彼の有名なフレスコ画をもとに作られた「最後の晩餐」のタピスリーが展示されます。このタピスリーがイタリアのヴァチカン美術館以外の場所で展示されるのは今回が初めてです。この作品は、1514年以前にルイズ・ド・サヴォワとその息子フランソワ・ダングレーム（未来のフランソワ1世）のために製作されました。フランソワ1世は1533年、息子のアンリ2世と法王の姪カトリーヌ・ド・メディシスが結婚する際に、このタピスリーを法王クレメンス7世に贈りました。会期中はそのほかに、国内外の博物館やクロ・リュセ城の所蔵品約30点が展示されます。

## スペクタクル

2019年7月/8月

📍 アゼ・ル・リドー城

音と光のナイト・スペクタクル SPECTACLE NOCTURNE SON ET LUMIÈRE

城の周囲に緑豊かに広がる19世紀の自然庭園で、音と光のスペクタクルが行われます。幻想的なキャラクターとともにすばらしい探検に出かけましょう。アゼ・ル・リドー城は、水に浮かんだような繊細ですらりとした姿で、夢と想像の世界へいざないます。このスペクタクルは、普遍的な意義を持つ発明と発見の精神をテーマに、ルネサンス、偉大な発見（地理、天文学、印刷術、科学、技術など）、人文主義、イタリアからもたらされた新しい芸術運動（古代美術から着想を得たもの）などにつながる大きな主題をあつかいます。



## 展示会

2019年2月、12月

📍 オルレアンのサン・ピエール・ル・ピュリエ Saint-Pierre-le-Puellier教会

レオナルド・ダ・ヴィンチが設計したヘリコプターの再現 AUTOUR DE LA VIS DE LÉONARD DE VINCI RECONSTITUÉE

ヘリコプターを先取りした飛行機械《ラ・ヴィス La Vis》。地元の科学文化、技術、ノウハウを総動員し、専門家集団と大学が協力し、この機械を再現します。この大プロジェクトは、フランスとイタリア、とりわけトスカーナ（ダ・ヴィンチ生誕の地）との大学、専門家集団、観光、人的つながりから実現しました。今回再現されるラ・ヴィスは直径5.5メートル、高さ3.5メートル、重さ400キロで、世界最大となります。実際に回転させると、搭載されたモーターと電気によって7メートルまで上昇することができます。国際巡回展は2019年3月-4月にサントル・ヴァル・ド・ロワールで始まり、《レオナルド・ダ・ヴィンチと彼の自動機械 Léonard de Vinci et les robots》というテーマで、オーニソプターとラ・ヴィスの2つの機械が展示されます。この展示会では、楽しく学びながら現在とは様変わりするであろう私たちの未来を考えます。

## 展示会

2019年5月、9月

📍 シャンボール城

国際建築コンクール《ユートピアから作品へ DE L'UTOPIE À L'OEUVRE》

シャンボール城では築城開始から500年を祝い、展示会《シャンボール1519-2019：ユートピアから作品へ Chambord 1519-2019 : De l'utopie à l'oeuvre》を開催します。城の過去と未来を考える、今までにない内容です。ユートピアという観点から、シャンボール城のすべての時代の姿を見せるというもので、ルネサンス時代の関心事や夢、城の建築家としてのダ・ヴィンチの地位などが素描、絵画、模型、オブジェ、デジタルツールなどで表現されます。

この展示会では、過去を知ることに加えて初めての試みも行われます。世界中の有名大学の約20の建築ラボが、シャンボール城を21世紀のユートピアとして自由に作り替えるのです。



## 展覧会

2019年5月18日/9月1日

📍 プロワ城

ルネサンスの子どもたち LES ENFANTS DE LA RENAISSANCE  
ヨーロッパ・シンポジウム《カトリーヌ・ド・メディシス》 COLLOQUE EUROPÉEN « CATHERINE DE MÉDICIS »

1519年4月15日に生まれたカトリーヌ王妃はしばしばプロワ城に長期滞在し、1589年1月5日にこの城でなくなります。1544年から1556年のあいだ、彼女は10人の子どもを産み、そのうち7人が成人しました。そしてその中の3人がフランスの統治者となったのです。プロワ城では王の子どもたちが何人も暮らしましたが、それはカトリーヌの子どもだけではありません。同じくプロワ城で暮らし、亡くなったアンヌ・ド・ブルターニュ Anne de Bretagne やクロード・ド・フランス Claude de France の子どもたちもいました。そこでプロワ城では、500年を祝うに当たってルネサンス時代の子どもをテーマに選んだのです。

展示会では王の子どもたちだけでなく、妊娠や出産、子どもの教育や遊びもテーマとなっています。展示会の目録では、王子たちの誕生と子ども時代、妊娠を義務づけられた王妃たち、王妃の不妊の問題、宮廷で子どもたちに仕える人々や儀式について、さらに深く掘り下げます。

## + DE 500 ÉVÉNEMENTS POUR UNE PROGRAMMATION EXCEPTIONNELLE !

500を超えるイベント満載 とっておきのプログラム！

### 見学



2019年1月-12月

### トール

ブルミエール・ルネサンス PREMIÈRE RENAISSANCE : ガイドツアー

トール・ヴァル・ド・ロワール観光局との協力で歴史遺産推進部が4つのテーマでガイドツアーを行います。

- 1) ルネサンスの概要
- 2) ルネサンス時代の館と邸宅
- 3) ルネサンス時代の宗教建築
- 4) ルネサンス時代をしのばせるスポット

### 展覧会

2019年1月-4月

トール美術館 Musée des Beaux Arts de Tours

レオナルド・ダ・ヴィンチにおける音楽の発明 L'INVENTION MUSICALE CHEZ LÉONARD DE VINCI

展示と音楽・視覚インスタレーションによって、レオナルド・ダ・ヴィンチの音楽創作の過程、音の響きについての考察、楽器の製作にスポットを当てます。

### 展覧会



2019年2月1日/9月1日

オリヴィエ・ドゥブレ現代創作センター アリツィア・クヴァーデ ALICJA KWADE

1979年ポーランド生まれの若きアーティストアリツィア・クヴァーデは、世界各国の有名美術館やヴェネツィア・ピエンナーレなどのイベントに作品を展示しています。オリヴィエ・ドゥブレ現代創作センターでの展覧会は彼女にとってフランスで初めての個展で、中央廊下に置くために作った未公開作品が、展示されます。彼女の作品には、時空についての科学理論が取り入れられています。彼女の彫刻は詩的で哲学を感じさせます。錬金術師のように石炭を金に変えてしまうのです。彼女は科学器具の素材やイメージをもとに詩的で形而上学的な力をもつ材料を厳選します。彼女の作品は、外見と時間について問い直し、シンプルで明確な効果を用いてイメージ、リアリティ、反映を操ります。時にはほとんど見るできないほどの限界を持って行くこともあります。

### 展覧会



2019年3月/11月

フォンダシオン・デュ・ドゥート・プロワフルックスショウ 2019 フランス FLUXSHOW 2019 FRANCE / フルクサス FLUXUS / イタリア ITALIE / イタリアの1年 UNE ANNÉE ITALIENNE

フォンダシオン・デュ・ドゥートの展覧会では《あっと驚くアートな機械》を作ったふたりのアーティストの作品があつまります。ひとりめは、テレビを使った作品やオーディオビジュアルに変革をもたらしたナム・ジュン・パイク Nam June Paik。もう一人は、自動車、飛行機、テレビなどあらゆる近代テクノロジーを使ったヴォルフ・フォステル Wolf Vostell です。アカデミー・ドゥ・ドゥート Académie du douteが開設され、1年を通じて、アートによる操作や変革、テクノロジーの常識はずれな使い方という原則にのった疑問、試み、未完成に関連した主題のセッションが開かれます。

フルックスショウ 2019年夏 FLUXSHOW été 2019 : プロワとイタリアが再び結びつきます。フルクサスの精神を受け継ぎ娯楽アートを愛するイタリアとフランスの若手アーティストたちが集まり、集団で1トンの産業廃棄物を利用して自動車のような機械を作ります。この機械は、2019年の夏のあいだ、<ドゥート大広場 Grand cour du doute > とく言葉の壁 Mur des mots > に展示されます。その後、さらに多くの方にご覧いただくため、さまざまな場所に移動します。

### コンサート

2019年4月-7月

ノフルラック修道院

コンセール・プロロンジェ LE CONCERT PROLONGÉ

コンサートをイマーシブ・サウンド(3次元音響)装置で聴くイベントです。ヘクサフォンによる最先端の集音技術により、観客はタッチパネルでいくつかの場所(指揮台、客席、屋外など)を選び、そこから聞こえる音でコンサートを楽しみます。

### 展覧会



2019年4月-11月

リヴォー城 - レムレ

ルネサンスへの現代的オマージュ HOMMAGE CONTEMPORAIN À LA RENAISSANCE

レオナルド・ダ・ヴィンチやルネサンスから影響を受けた現代アーティストたちの展覧会です。トールで生活し、国際的に活躍しているファビアン・メレルもそのひとり。展覧会「レオナルドへのオマージュ」は、500年前にヴァル・ド・ロワールでなくなったダ・ヴィンチの遺産を現代アートに移し替える試みです。いわば広大な驚愕の部屋(ヨーロッパで作られていた珍品を集めた陳列室)ともいえる展覧会で、歴史ある部屋の数々が使われます。これは、製作が目的ではなく思考の手段であった多才なダ・ヴィンチの思考システムに似ているかもしれませんが、世界で活躍するアーティストたちが、普遍的な知性を持っていたダ・ヴィンチのさまざまな業績へ興味を掻き立ててくれます。展覧会では、1500年頃のイタリアとフランスの交流も紹介します。シャルル8世やルイ12世のもとで、芸術におけるイタリ

ア主義が始まり、それは現在にも続いています。フィレンツェからもアントネッラ・ブッサーニッチ、アレッサンドラ・カーボダックワ、アレッサンドラ・ラギオニエールといったアーティストが招待されます。

展覧会では、それぞれの部屋がレオナルドが探究したテーマ(自画像、肖像画、歴史画、風景、薬学、静物、女性像、服のドレープ)にあてられ、本の章立てのようになっています。

### 展覧会



2019年5月-9月

シャトーダン城 Château de Châteaudun

ルネサンスのライフスタイル ART DE VIVRE À LA RENAISSANCE

ルネサンス時代のライフスタイルの変遷に関する展示会です。ガイドツアーで、空中庭園、浴室、ルネサンス様式の階段など、当時の生活をしのばせる場所をまわります。

### アーティスト・イン・レジデンス

2019年5月2日-9月2日

アンボワーズ城

アーティスト、ラボのレジデンス RÉSIDENCE DE L'ARTISTE RAVO

イタリアのストリートアーティスト、アンドレア・マットーニ・アリアス・ラボ Andrea Mattoni alias RAVOは、2016年にカラヴァッジオ、ドラクロワ、ドゥ・ラ・トゥールといった画家たちの傑作の巨大なレプリカをその場で作るという、野心的なプロジェクトを始めました。巨匠たちに対する彼のオマージュは、深い色彩、力強い線とその大きさで、本物と見まごうばかりです。彼は2019年4月に10日間ほどアンボワーズ城に滞在し、観客の前で絵画を制作します。この展覧会はアトリエ・ドゥ・レトワール協会コンクールとの協力で企画されました。

### 展覧会



2019年5月25日-10月20日

サン・コム小修道院 Prieuré Saint-Cosme - ラ・リッシュ La Riche

ロンサールフェシュレーン、共鳴 1569 - 2019 RONSARD - VERSCHUEREN, RÉSONNANCES 1569-2019

長い歴史を持ち、芸術家に着想を与える憧れの地であったサン・コム小修道院。ここで大詩人の作品を現代的な視点から読み解きます。1569年、ロンサールは同時代の芸術作品に触発されて、重要な作品を書きました。彼の自然に対する愛や、心優しい行動がアーティスト、ポップ・フェシュレーンにインスピレーションを与えました。彼の作ったランド・アートに似た巨大であっと驚くようなインスタレーションをめぐるみましょう。



## + DE 500 ÉVÉNEMENTS POUR UNE PROGRAMMATION EXCEPTIONNELLE !

500を超えるイベント満載 とっておきのプログラム！

### 展覧会

#### 2019年6月-9月

📍ブルジュ - バルヴィ・デ・メチエ Parvis des métiers

職人の仕事部屋 LE CABINET DE CURIOSITÉS ARTISANALES

ブルジュ大聖堂の前にあるバルヴィ・デ・メチエで開催されるグループ展。陶芸家、家具職人、ガラス職人、石工、金具職人、帽子作家、彫金師、アクセサリー作家、木彫家、剥製作家などが、ルネサンス時代のすばらしい職人仕事へのオマージュを送ります。

### コンサート

#### 2019年6月/9月

📍ノワルラック、クチュール・シュル・ロワール、モントレゾール、トゥール

ロワール川にそってレオナルドの足跡をたどり、流れに耳を傾ける AU LONG DE LA LOIRE, À L'ÉCOUTE DU FLEUVE, SUR LES PAS DE LÉONARD

このプログラムで、ジャック・モデルヌ・アンサンブル L' Ensemble Jacques Moderne はヨハネス・オケゲム Jean de Ockeghem、クレマン・ジャンカン Clément Janequin、ジャン・ムートン Jean Mouton などルネサンス時代の作曲家たちの作品を演奏します。

コンサートの予定：2019年6月22日ノワルラック修道院（シェール県）/2019年7月27日クチュール・シュル・ロワール Couture-sur-Loir（ロワール・エ・シェール県）/2019年8月31日モントレゾール Montrésor（アンドル・エ・ロワール県）/2019年9月トゥール（アンドル・エ・ロワール県）

### 展覧会

#### 2019年7月/8月

📍アンボワーズ

ル・ガラージュ：ブルミエール・エクスポジション LE GARAGE : PREMIÈRE EXPOSITION

2019年にオープンする新しい展示スペースで、マクシム・トローMaxime Thoreauの個展が開かれます。彼は何よりも《美的エネルギー》を与えるためにマシンやオブジェを創作しており、彼の技術と感覚からのアプローチはダ・ヴィンチの仕事や探究に通じるものがあります。

### スペクタクル



#### 2019年7月23日

📍アンボワーズ城

マニフィシアンズ・ア・ラ・クール・ド・フランス (壮麗なるフランス宮廷) MAGNIFICENCES À LA COUR DE FRANCE

アンサンブル・ドゥルス・メモワール ensemble Douce Mémoireによるスペクタクル。1515年頃（レオナルド・ダ・ヴィンチが王の招きでフランスにやって来た時期）のフランソワ1世の宮廷での祝宴を再現します。画家、天才発明家であったダ・ヴィンチは、祝宴のオーガナイザーとしても評判で、彼の独創性と優れた創造力は、当時の権力者たちから称えられました。

### デジタルツアー

#### 2019年7月から

📍アンボワーズ城

スイリー Seuilly、ラブレ博物館「ラ・ドゥヴィニエール」Musée Rabelais, La Devinière

文学世界の地理と現実の地理をつなげる革新的な技術を組み合わせた音声とインタラクティブのデジタルツアー。モバイルアプリによってジオロケーションされた音声ツアーで、ラ・ドゥヴィニエールの館、ラブレの生家、スイリー修道院を回ります。

### 巡回スペクタクル

#### 2019年8月15日-9月15日

📍アンボワーズ、プロワ、ブルジュ、シャンポール、オルレアン、トゥール

ルネサンス・デジタル巡回スペクタクル SPECTACLE NUMÉRIQUE ITINÉRANT RENAISSANCE (S)

このスペクタクルは、最新のテクノロジーで観客を次元のヴィジュアルと音声の世界にいざないます。拡張現実、ヴァーチャル・リアリティといった多様なテクノロジーが、ヴィジュアルなインターフェースを用いた没入的な世界を作り上げるのに利用されています。スペクタクルは、ルネサンスの人文主義と革新精神を伝える物語となっています。クリエイティブで先見の明にあふれ、多方面に才能を発揮したレオナルド・ダ・ヴィンチや、当時の有名人、作品、ルネサンス時代に作られた主要な文化遺産が登場し、今日そして将来のサントル・ヴァル・ド・ロワール地方を体感できます。

### フェスティバル



#### 2019年9月29日

📍クロ・リュセ城 - アンボワーズ

ルネサンス音楽ヨーロッパ・フェスティバル FESTIVAL EUROPÉEN DE MUSIQUE RENAISSANCE

レオナルド・ダ・ヴィンチ没後500年を記念して、著名な音楽家・指揮者のジョルディ・サヴァール Jordi Savallが今までにないプログラムに挑戦します。室内管弦楽団・コンセル・デ・ナシオン Concert des Nationsのメンバーが共演します。コンサートが行われるのは、クロ・リュセ城によって全面的に改修された展示ホールです。フランスの美術館・博物館の規格のみならず、音楽祭を開催するための音響の規格もクリアしたスペースです。

### イベント



#### 2019年10月

📍ランデ・ヴァー・ド・リストワール・ド・プロワ Les Rendez-vous de l'Histoire de Blois

ヴァル・ド・ロワール、フランスそしてヨーロッパのルネサンス LA RENAISSANCE EN VAL DE LOIRE, EN FRANCE ET EN EUROPE / フランス映画「ルネサンス」フィルムフェスティバル FESTIVAL DU FILM FRANÇAIS RENAISSANCE

第22回ランデ・ヴァー・ド・リストワールに際して、ルネサンス高等研究センターは《ヴァル・ド・ロワール、フランスそしてヨーロッパのルネサンス》という特別プログラムを企画しました。フランス映画「ルネサンス」のフェスティバルにあわせて、歴史映画が上映され、討論会、講演会、ワークショップなどを楽しみます。映画の製作を歴史主義絵画の歩みという視点から考えます。

### スペクタクル

#### 2019年10月-12月

📍ブルジュ Bourges

ペルスベクティブ・ソノール (音への展望) PERSPECTIVES SONORES : 建築との関わりから現代における音声の利用について LES PRATIQUES CONTEMPORAINES DU SON EN RÉSONNANCE AVEC L'ARCHITECTURE

このプログラムは、最新の芸術形式を発見するとともに、バイオアート、音響芸術、映画、現代メディアなどをめぐるクリエーションの新しい展望を開くために、観客を探究のプロセスに参加させるというものです。イベントは講演会、ワークショップ、アーティスト・イン・レジデンスの3部構成です。

・第1部 ラルマン邸 Hôtel Lallemantにて。2019年10月17日-11月16日

・第2部ブルジュ国立高等芸術学校のギャラリー、ラ・ボックス La Boxにて。2019年10月10日-11月16日

・第3部ブルジュの複数の会場（ジャック・クール宮 Palais Jacques Coeur、エステーヴ美術館 Musée Estève、アール・オ・ブレ Halle au Blé、キュジャ広場 Place Cujas…）で音声作品が発表されます。2019年10月-12月

### インスタレーション

#### 2019年6月-7月

📍アンボワーズ、ショモン・シュル・ロワール、オルレアン、トゥール近郊のロワール川

ミロワール・ドゥ・ロワール (ロワールの鏡) MIROIRS DE LOIRE

ミロワール・ドゥ・ロワールは、ランド・アートタイプのインスタレーションで、大型の造形作品が展示されます。7つの両面鏡が数ヶ月間、植物のない砂州に設置されます。

これは、ダ・ヴィンチが行った視覚と光の研究を意識したものです。設置された鏡は、ロワール川流域の光を捉え、向きを変え、増幅させます。そしてスピリチュアルなオーラによって、ダ・ヴィンチの存在を包み込むのです。

このインスタレーションは、朝晩に橋を渡るとき、ボートに乗っているとき、自転車に乗っているとき、トレッ

キングの最中、気球から下を見下ろしたときなど、さまざまな場所から見るることができます。風景をちがった視点から見せてくれる鏡をめぐることで、住民だけでなく旅行者、トレッキング愛好者、通りすがりの人など、誰もが散歩しながら芸術・文化を楽しめます。鏡は6メートル四方。ふたつの面は少し開いて裏返された本のようなかたちで設置されます。

### 展覧会

#### 2019年5月-10月

📍ロシュ城 Cité royale de Loches

ルドヴィーコ・スフォルツァ：監獄の文芸庇護者 LUDOVIC SFORZA : UN MECÈNE AU CACHOT

レオナルド・ダ・ヴィンチの大庇護者であり、彼にあの有名な「最後の晚餐」を注文したルドヴィーコ・スフォルツァ《イル・モーロ (ムーア人の意。彼が色黒であったことから)》(1451-1508)に関する展覧会がロシュ城で開催されます。美術品、画像資料によって、彼の人物と果たした役割にせまり、新しい芸術を促した彼の行動をたどります。とりわけ彼の失脚とロシュの塔への投獄(1504-1508)に焦点があてられます。監獄で、彼は最後に彼の手になると思われる絵画を描き、感情やシンボルをこえてミラノのスフォルツァ城(装飾はダ・ヴィンチが担当しました)の思い出を表現しました。

### イベント

#### 2019年7月21日

📍シノン城 Forteresse royale de Chinon シノン城のボルジア家 LES BORGIA A CHINON

1498年に法王アレクサンデル6世の息子チェザーレ・ボルジアが王に会うためにシノン城にやって来ました。シノン城では、この時の訪問を再現します。随行員や騎士の再現、カルチョ・ストリコ(ルネサンス時代のフィレンツェのスポーツ。初期のフットボール)のデモンストレーション、フィレンツェのルネサンス料理の試食、ルネサンスのダンス、音楽などを楽しみます。

# OUVERTURE DE RIDEAU

いよいよ開幕!

「レオナルド・ダ・ヴィンチ・ツアー」に際し、ふたつの展覧会をプレミアムショーでご覧いただけます。いずれも過去・現在・未来をつなぐというこのプログラムの精神をよく伝える展示です。ひとつは芸術、もう一つは科学分野で、新テクノロジーを用いており、サントル・ヴァル・ド・ロワール地方の歴史遺産について現代的な新しい見方を提案します。

まず2018年11月17日から2019年2月24日までアレックス・マククリーン Alex MacLean の作品がシヨモン・シュル・ロワールに展示されます。

もうひとつは、ヒストヴェリーHistoverly社のヒストパッドHistopadシステムがサントル・ヴァル・ド・ロワール地方の5つの主要観光地で、在りし日の景観が再現されます。《ヴィジット・オグマンテ (拡張見学)》の体験を楽しみましょう。



ヴィランドリー城château de Villandry © Alex MacLean(シヨモン・シュル・ロワール)

世界遺産に登録された土地に建つルネサンスの傑作建築物に、マククリーンは王や文芸の庇護者たちが芸術や思想を開花させた時代のすばらしさという視点を加えました。

彼が伝えるのは、世界遺産に対する新たな、きわめて現代的な見方です。シュノンソー城、シャンボール城、アンボワーズ城、アゼール・リドー城などが、ふだんとは違った光のなかで、姿を見せています。何世紀も前からそのままの姿で、周囲の風景と調和しながら生き続けたすばらしい石の建築の美しさと永遠性が強く感じられます。マククリーンの鋭い目は、ロワール河畔の金色の光の中で、建物の優美さ、調和、シンメトリー、完璧なフォルムと均整をとらえました。

●(展覧会プロデューサー シャンタル・コルー・デュモン Chantal Colleu-Dumond)

アレックス・マククリーンはマサチューセッツのリンカーン在住で、アメリカのケンブリッジで活動しています。彼の作品は、アメリカ、カナダ、ヨーロッパ、アジアで展示されており、公共施設所蔵のものも、個人蔵のものもあります。多くの賞を受けていますが、主なものとしては2003年-2004年にローマ・アメリカン・アカデミーの風景部門でローマ賞を受賞しています。またグラハム・ファンデーシオン Fondation Graham、国立芸術基金などから奨学金を得ています。Look at the Land ; Aerial Reflections of America (1993) , Chroniques Aeriennes、L'art d' Alex MacLean (2010)、Up on the Roof : New York' s Hidden Skyline Spaces (2012)、Supply + Demand (2014) など著書多数。

パイロット、写真家であるマククリーンは、航空写真において伝統的な手法を用いますが、彼が追究するのはすばらしい風景を称賛することではなく、撮影した場所の歴史と変化を再構築することなのです。

## EXPOSITION « RENAISSANCES » ALEX MACLEAN

展覧会《ルネサンス》  
アレックス・マククリーン

偉大な風景写真家であるアレックス・マククリーンは、ルネサンス500年を記念して、2018年7月にサントル・ヴァル・ド・ロワールの城の上を飛行し、写真を撮影しました。ユネスコの



## HISTOPAD

ヒストパッド

2019年春、サントル・ヴァル・ド・ロワールのルネサンス500年祭に合わせ、ロワールの各城では《ルート・オグマンテ route augmentée》が始まります。

歴史遺産とハイテクの結びつきから生まれたインタラクティブな展覧会「Viva Leonardo Da Vinci!」展：舞台美術と新しいデジタルメティエーションを兼ね備えたデバイスを使って、地元のすばらしい歴史遺産が《壁を越えて》旅をし、新たな観客と出会います。拡張現実と16世紀の専門家たちの力によって作られた見学用タブレット「ヒストパッド」。これをもった来場者は、いくつかの部屋を360度再現された形で見ることができるのです。シャンボール城、プロワ城、ロシュ城、アンボワーズ城、シノン城で実施され、ルネサンス時代の雰囲気にとっぷりとひたることができます。

ヒストヴェリーHistoverly社は、新しいテクノロジーによる歴史遺産の活用を専門に行う先駆的な会社のひとつです。2011年以来、ヒストパッドによる拡張現実を利用した観光スタイルを開発しています。ヒストパッドは、すでにパリのコンシェルジュリーConciergerie、アヴィニヨンの教皇庁、フォンテーヌブロー城などの人気観光地で使われています。

ヴァル・ド・ロワールの景観、とりわけその文化遺産は、  
西ヨーロッパの思想と創作に関するルネサンスの理想を、  
きわめて高い水準で明示している。

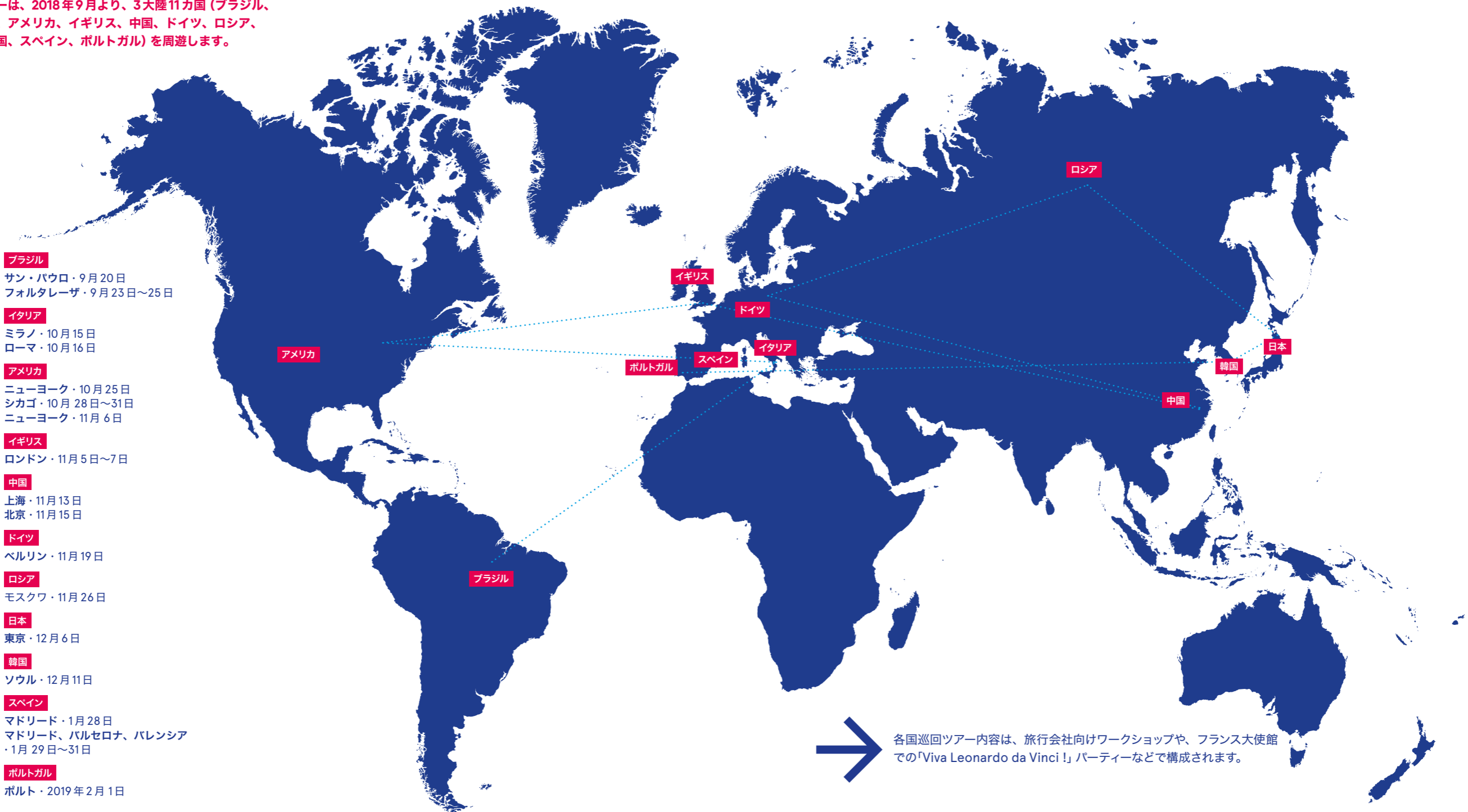
(ユネスコのレポート)

# LE TOUR

## VIVA LEONARDO DA VINCI!

11ヶ国で開催する17の各種キックオフイベント  
「ダ・ヴィンチ・ツアー」

このツアーは、2018年9月より、3大陸11カ国（ブラジル、イタリア、アメリカ、イギリス、中国、ドイツ、ロシア、日本、韓国、スペイン、ポルトガル）を周遊します。



各国巡回ツアー内容は、旅行会社向けワークショップや、フランス大使館での「Viva Leonardo da Vinci!」パーティーなどで構成されます。

# ATOUT FRANCE

## フランス観光開発機構

VIVA LEONARDO DA VINCI!プロジェクトパートナー

フランス観光開発機構は、世界各国にてフランスの観光デスティネーションをPRする機関であり、フランス内の地方・地域に対するコンサルタント業務により、それらの観光の質を高め、観光商品を刷新する支援を行います。

去る1月19日の観光に関する各省間会議で、首相は、2020年にフランスを訪れる観光客を1億人に引き上げ、収益500億ユーロを達成するという政府目標を再度強調し、フランス観光開発機構の役割の重要性を訴えました。フランス観光開発機構のミッションとして、以下のものが挙げられます。

- 各地域で進んでいる観光プロジェクトに対し、技術・資金によって、質を高めサービスを刷新する。
- 世界各国に対して、デスティネーションのブランド（地元の企業も）を開発、プロモーションする。

フランス観光開発機構は、観光サービスを活性化しその質を高めるために、フランス各地の開発戦略を支援し、投資計画の作成に貢献しています。

フランス観光開発機構は世界中に33のオフィスを展開し、外交ネットワークを密に築いています。また、あらゆる観光市場に精通し、旅行商品の販売当事者との連携もしています。

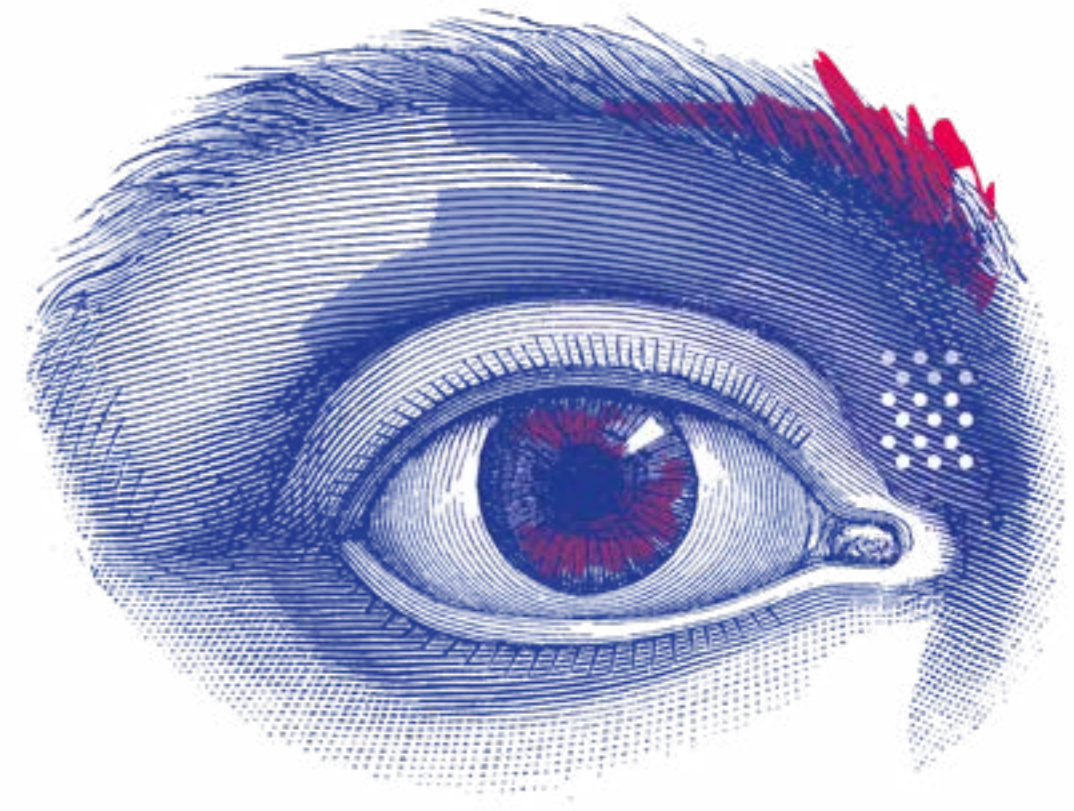
毎年世界中で、B2B（海外の旅行代理店、プレス、インフルエンサー）、B2Cの双方で、2,800以上のプロモーション戦略が企画されています。

中でも公式サイト France.fr を介して、世界中のネットユーザー（16言語、31バージョン）に向け、フランスの観光デスティネーションの魅力を発信しています。



詳しくは下記サイトをご覧ください

atout-france.fr  
または france.fr



## UNE DÉMARCHE COLLECTIVE

### ひとつの地域に光を当てた パートナーシップ



2018/2019の行動計画はパートナー協定の枠組みの中で、フランス観光開発機構、サントル・ヴァル・ド・ロワール地方圏、サントル・ヴァル・ド・ロワール地方観光局から出資を受けます。この3つの組織は共同で《Viva Leonardo da Vinci! -2019サントル・ヴァル・ド・ロワール地方ルネサンス500年祭》の国際的なプロモーションを進めることになりました。2019年の祝賀イベントは単なる記念行事ではなく、国内外に広がる大規模な戦略なのです。

**サントル・ヴァル・ド・ロワールは、フランスにおける2019年有カデスティネーションに選ばれました。**

サントル・ヴァル・ド・ロワールを有カデスティネーションに選出した外務大臣の力添えで、世界中のフランス観光開発機構のスタッフが動員されるだけでなく、大使やアンスティチュ・フランスのネットワークもこのイベントの成功に向けて動きます。



# VIVA LEONARDO DA VINCI!

アゼ・ル・リト— © Leonard de Serres

## ILS CONTRIBUENT ET SE MOBILISENT 大規模プログラムの参画メンバー

サントル・ヴァル・ド・ロワール地方圏議会議長フランソワ・ポノーは、以下の方々のご協力に感謝申し上げます。

### Jean-Baptiste Lemoyne

ジャン=バティスト・ルモワヌ  
Secrétaire d'État auprès du ministre de l'Europe et des affaires étrangères  
ヨーロッパ・外務大臣付副大臣

### Stéphane Bern

ステファヌ・ベルヌ  
Ambassadeur des 500 ans de la Renaissance en Centre-Val de Loire  
サントル・ヴァル・ド・ロワールにおけるルネサンス500年祭アンバサダー

### Monica Barni

モニカ・バルニ  
Vice-présidente de la Région Toscane  
トスカーナ州副議長

### Christian Mantei

クリスチャン・マンティ  
Directeur général d'Atout France  
フランス観光開発機構総裁

### Le Musée du Louvre

ルーヴル美術館

### Jean-Marc Falcone

ジャン=マルク・ファルコンヌ  
Préfet de la Région Centre-Val de Loire  
サントル・ヴァル・ド・ロワール地方圏知事

### Marc Gricourt

マルク・グリクール  
Maire de Blois / Premier Vice-Président de la Région Centre-Val de Loire  
ブロワ市長/サントル・ヴァル・ド・ロワール地方圏議会第1副議長

### Agnès Sinsoulier-Bigot

アニエス・サンズリエ=ビゴ  
Vice-présidente de la Région Centre-Val de Loire déléguée à la Culture  
サントル・ヴァル・ド・ロワール地方圏議会文化担当副議長

### Christelle de Crémiers

クリステル・ド・クレミア  
Vice-présidente de la Région Centre-Val de Loire, déléguée au Tourisme  
サントル・ヴァル・ド・ロワール地方圏議会観光担当副議長

### Pierre-Alain Roiron

ピエール=アラン・ロワロン  
Président du CRT (Comité Régional du Tourisme) Centre-Val de Loire  
サントル・ヴァル・ド・ロワール地方観光局長

### Jean d'Haussonville

ジャン・ドソンヴィル  
Directeur général de Chambord  
ジャンポール城 ジェネラルディレクター

### François Saint-Bris

フランソワ・サン=ブリ  
Propriétaire du Clos Lucé d'Amboise  
アンボワーズ、クロ・リュセ城オーナー

### Jean-Louis Sureau

ジャン=ルイ・シュロー  
Directeur Général du Château d'Amboise  
アンボワーズ城 ジェネラルディレクター

### Antoine Bonneville

アントワヌ・ボヌヴィル  
Président de la Chambre de Commerce et de l'Industrie régionale  
サントル・ヴァル・ド・ロワール地方商工会議所会頭

### Isabelle Longuet

イザベル・ロンゲ  
Directrice de la Mission Val de Loire  
ミッション・ヴァル・ド・ロワール・マネージャー

### Jean-Gérard Paumier

ジャン=ゲラルド・ポミエ  
Président du Conseil départemental d'Indre-et-Loire  
アンドル・エ・ロワール県議会議長

### Nicolas Perruchot

ニコラ・ペリュショ  
Président du Conseil départemental Loir-et-Cher  
ロワール・エ・シェール県議会議長

### Marc Gaudet

マルク・ゴデ  
Président du Conseil départemental de Loiret  
ロワレ県議会議長

### Serge Descout

セルジュ・デクー  
Président du Conseil départemental de l'Indre  
アンドル県議会議長

### Claude Téroinard

クロード・テルイナル  
Président du Conseil départemental d'Eure-et-Loir  
ウール・エ・ロワール県議会議長

### Michel Autissier

ミシェル・オティシエ  
Président du Conseil départemental de Cher  
シェール県議会議長

### La DRAC (Direction Régionale des Affaires Culturelles)

La DRAC (地方圏州文化局)

### Éric Chevée

エリック・シュヴェ  
Président du CESER (Conseil Economique, Social et Environnemental Régional)  
CESER (地方圏経済社会環境委員会) 委員長

### Philippe Briand

フィリップ・ブリアン  
Président de Tours Métropole Val de Loire  
トゥール・メトロポール・ヴァル・ド・ロワール議長

### Olivier Carré

オリヴィエ・カレ  
Président d'Orléans Métropole  
オルレアン・メトロポール議長

### Benoist Pierre

ブノワ・ピエール  
Directeur du CESR (Centre d'Études Supérieures de la Renaissance) et du programme IPAT (Intelligence des Patrimoines)  
CESR (ルネサンス高等研究センター) 所長、プログラムIPAT アンテリジャンヌ・デ・バトリモワヌ マネージャー

### Jean-Pierre Door

ジャン=ピエール・ドール  
Député, Président de l'Agglomération montargoise et rives du Loing  
代議士、モンタルジ・ロワン川沿岸都市圏議長

### Christophe Degruelle

クリストフ・ドゥグリュエル  
Président de la Communauté d'agglomération de Blois Agglopolys  
ブロワ・アグロポリス都市圏共同体議長

### Ary Bruand

アリ・ブリュアン  
Président de l'Université d'Orléans  
オルレアン大学総長

### Katia Béguin

カティア・ベガン  
Rectrice de l'Académie Orléans-Tours  
オルレアン・トゥール・アカデミー院長

### Chantal Colleu-Dumond

シャンタル・コルー=デュモン  
Directrice du Domaine régional de Chaumont-sur-Loire  
ショモン・シュール・ロワール支配人

### Laure Menier

ロール・ムニエ  
Conservatrice et propriétaire du Château de Chenonceau  
シュノンソー城キュレーター、オーナー

### Élisabeth La Trémolière

エリザベト・ラ・トレモリエール  
Conservateur Château de Blois et Présidente de l'association APSMC (Association des Personnels Scientifiques des Musées du Centre-Val de Loire)  
ブロワ城キュレーター、APSMC (サントル・ヴァル・ド・ロワール美術館・博物館学芸員協会) 会長

### Abdelkader Damani

アブデルカデル・ダマニ  
Directeur du FRAC (Fonds Régional d'Art Contemporain) Centre-Val de Loire  
サントル・ヴァル・ド・ロワールFRAC (現代アート地域基金) 総裁

### Patricia Laigneau

パトリシア・レニョー  
Propriétaire du Château du Rivau  
リヴォー城オーナー

### Alain Julien-Laferrrière

アラン・ジュリアン=ラフェリエール  
Directeur du CCCOD (Centre de Création Contemporaine Olivier Debré)  
オリヴィエ・ドゥブレ現代創作センター長

**VISUELS DISPONIBLES POUR LA PRESSE**

プレス貸出用画像



「モナリザ」レオナルド・ダ・ヴィンチ  
Château de Clos Luce, Leonard de Serres



ダ・ヴィンチ作とされる自画像 (1512-1515) 赤色顔料による素描。トリノ王立図書館蔵



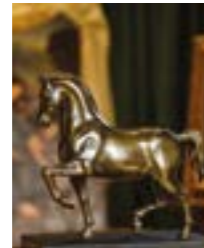
シヨモン・シュル・ロワール © E. Sander



シノン城 © Jean-Christophe Coutand



ロシュ城 © Gillardet Vincent



クロ・リュセ城、ダ・ヴィンチのアトリエ © Leonard de Serres



アリツィア・クヴァーテ OrbitaGravitas (2017) ステンレス、石 © Alicja Kwade. Photo. Archives Kamel Mennour / Courtesy the artist and Kamel Mennour, Paris/London



「ヒワの聖母」ジョヴァンニ・アントーニオ・ポルトラフィオの作品をもとに製作 © F. Laujinie



フランソワ＝ギヨーム・メナジヨ「レオナルド・ダ・ヴィンチの死」 © Leonard de Serres



ブロワ城 © Gillard et Vincent



シュノンソー城 © ADT Touraine, Loic Lagarde



アゼ・ル・リドー城 © N. Koenig



アゼ・ル・リドー城 © Leonard de Serres



シャンボール城 © S. Rio



ブロワ城 © C. Bouquin / Photos Pixel



クロ・リュセ城、ダ・ヴィンチの飛行機 © Léonard de Serres



アンボワーズの庭園と城 © Leonard de Serres



ブロワ Photo © D. Lepissier



リヴォー城



クロ・リュセ城、レオナルド・ダ・ヴィンチ・パーク © Leonard de Serres



「聖母と聖アンナ」レオナルド・ダ・ヴィンチ (1500-1513 頃) ルーヴル美術館蔵



オルレアン、FRAC。ジャコブ&マクファーレンの建築 © Nic Borel



ブルージュ、トランスバレット © Elizabeth Delval



ロワール川の自然観察 © OTBlois-Chambord



シャルトル大聖堂 @spectaculaire 歴史遺産のプロジェクト マッピング観光局



ドゥルス・メモワール・アンサンブル © DR



ジョルティ・サヴァール、クロ・リュセ城にて © L. Serres

## プレス問合せ先

Région Centre-Val de Loire  
サントル・ヴァール・ド・ロワール地方圏  
kim.hamisultane@regioncentre.fr  
+33 (0)6 78 19 76 52

Comité Régional du Tourisme  
Centre-Val de Loire  
サントル・ヴァール・ド・ロワール地方観光局  
Estelle Vandembroucq,  
Anaïs Verger, Vanessa Treney,  
Isabelle Scipion  
presse@centre-valde Loire.org  
+33 (0)2 38 79 95 08

Agence Heymann,  
Renoult Associées  
広報事務局アジャンス・エマン・ルノー・アソシエ  
Sarah Heymann, Leïla Zamiaty,  
Éleonora Alzetta  
+33 (0)1 44 61 76 76  
www.heyman-renoult.com

プレス(国内)  
Leïla Zamiaty  
l.zamiaty@heyman-renoult.com

プレス(インターナショナル)  
Éleonora Alzetta  
e.alzetta@heyman-renoult.com

Atout France au Japon  
Mayumi Masuda  
フランス観光開発機構  
広報担当 増田真由美  
mayumi.masuda@atout-france.fr  
+81 (0)3-3582-6968

— VIVA —

Leonardo  
Da Vinci!

— 2019 —

ルネサンス  
500年祭

サントル・ヴァール・ド・ロワール地方



[www.vivadavinci2019.fr](http://www.vivadavinci2019.fr)

